寺報
ともしび
金剛山大長寺
令和元年八月十二日発行
第九号

坂村先生の教えをいただき、～令和元年７月大長寺庭にて～

詩人坂村真民先生「四訓」を心に刻む

住職　安藤　康哉

一、川は、いつも流れていなくてはならぬ。人の心は油断するとすぐに塵り埃に埋もれる
さらさらと川の流れのようにいきたい。

二、頭はいつもひえていなくてはならぬ。常に冷静なること肝心なり。

三、目は澄んでいなくてはならぬ。心に邪の心がなければ美しい。俗に目は口ほどにものを言うと。

四、心はいつも燃えていなくてはならぬ。真摯の気概を持って前進せよと。

この四訓の教えを私は座右の銘として精進せねばならぬと・・

珠子氏をしのぶ

副住職　安藤　道隆

前々住職大森昭禅住職の妻であった大森珠子氏が本年五月二十五日になくなられました。珠子氏は、長年、先代住職を補佐され、大長寺を護られてこられました。珠子氏は、昭和三十一年に、当時の大本山總持寺の貫首さまのもとで、寺族得度を受け、「寺族」という立場になられました。

私の実母（美子）と歓談する珠子氏
～平成24年11月大長寺にて～

曹洞宗では、「寺族」である方は、住職がなくなられた時と同じよう近隣の住職さまがたをお呼びして懇ろに通夜・葬儀を行ないます。

珠子氏は、お寺では常に裏方に徹せられ、本堂での法事の準備、境内の草むしりを只ひたすらに、されていたことを、私自身の幼心に記憶しております。

珠子氏は、私の実母の姉にあたり、風貌が四人姉妹のうち、実母とよく似ており、六年前に実母が逝去してからは、珠子氏を拝見すると、実母を想起するほどでした。

別掲の写真は、約七年前、実母が一旦病気から回復して、大長寺を訪れ、珠子氏と歓談していたときに撮った写真であります。

性格は、私からすると、珠子氏は、おっとりしているように見受けられ、実母は、茶目っ気があるタイプでしたが、身体に良いと言われる食べ物を見つけると、それを人に勧める性格は共通しておりました。

表に出ることを、あまり好まなかった珠子氏でありましたが、一つだけ、壇上に座っていたことがありました。

それは、平成十三年、先代の昭禅師が曹洞宗の名誉ある僧階（大教師）に補任、勲五等瑞宝章・世界平和文化大賞を受けられ、その祝賀会が開催されたときであります。昭禅師を支えられた功績を讃え、感謝状が贈呈されました。

そのときも、ただ、それを誇示することなくひたむきに．私のようなものが恐縮極まりないというようなお気持ちで受け取られました。

また、大長寺の梅花講では、檀信徒の皆様と詠讃歌の詠唱を通じて、檀信徒の教化に務められていました。

梅花講に携わる寺族としては、最高位である「正流詠範」という教階に就かれました。過日、四十九日法要も終えたことでありますが、その際には、本葬儀と同じように、大長寺梅花講の講員さんが、供養のための詠唱をしていただきました。故人も大変に喜んでいることと想います。

檀家さまに尽くし、大長寺を護持されたその足跡は忘れることはありません。大寂静中、安楽を願わずにはおられません。

最後に大本山永平寺を開かれた、道元禅師が読まれた歌を紹介いたします。

身をけずり　人に尽くさん
すりこぎの
その味知れる人ぞ　尊し

（その意味は）

他の人のために一生懸命努力している人の労苦を感じ取り、そのことへ感謝の気持ちを持つ。そういう感謝の心を持って、日々生きている人は尊い。

仏教講座

北京での宗教学者たちとの討論

院代　安藤嘉則

平成十九年暮れ、北京の中国人民大学にて集中講義を行った際、北京連合大学に招かれ、そこで十名ほどの宗教学者と研究交流会を持ちました。

そのとき満州人の学者が靖国問題を取り上げ、「日本の仏教徒には因果の道理（善因楽果、悪因苦果）はないのですか？」という質問がありました。つまりそれは戦犯とされる人が日本ではなぜ神様になれるのか、ということです。

その質問に対して、私はまず中国の二人の人物、岳飛と伍子胥（ごししょ）を挙げて説明しました。まず岳飛ですが、南宋の時代、祖国の領土回復のために勇敢に戦うものの、時の宰相秦檜（しんかい）が彼に無実の罪を着せ殺してしまいます。後に岳飛の廟が杭州に建てられ、今も参詣者が絶えませんが、岳飛の墓の前に見せしめのように秦檜夫妻が後手に縛られ、ひざまずいた像が作られ毎日唾をかけられています。私も杭州に行って見学しましたが、秦檜像の後ろに「唾をはくな」（請勿吐痰）という札があっても秦檜の像は唾でべとべとでした。

もう一つは司馬遷の『史記』で「臥薪嘗胆」の話に登場する伍子胥です。彼は自分の父・兄を殺した仇である楚の平王の墓を暴き、その遺骸を鞭でこなごな打ち砕きます。これが「死者に鞭打つ」の言葉の由来ですが、彼も中国で英雄として廟に祀られています。このように中国の人たちの多くは、英雄を讃え、悪い行いをした者は死後も相応の報いを受けると考えます。

岳王廟秦檜夫妻の像

しかし日本の場合、「死者に鞭打つ」といった場合、それだけはやってはならないと受け止める人がほとんどです。また靖国合祀問題についてもA級戦犯の人たちは死を受け止めたことによって全面的ではないにしろ贖われたという感覚をもつ日本人は少なくありません。死が成仏とイコールではありませんが、通俗的に「成仏する」ことと「死ぬ」ことを混同する日本的死生観があります。その背景には葬儀における授戒・引導という成仏への供養システムも存在し、死を通じて天地にかえっていく自然の浄化システムもあるでしょう。

このような中国と日本における死と成仏に対する認識の相違が、実は靖国問題にも影を落としているのは・・・。そんなことを当時、中国側の質問に対して答えたところ、この学者は「大変よくわかりました。飛行機代を出すので来年も是非北京へ来てください」とおっしゃっていただきました。あくまで外交辞令かもしれませんが・・。

特別志納者の紹介

ご逝去の方々と命日

・故　石井京子　様
行年　六十六歳
令和元年六月二十七日没
上島
施主　石井勉　様

榛梅花講員募集のお知らせ

梅花講の新講員さんを募集いたします。

新たな講員さんは一年間、新しいカリキュラムでゆっくり丁寧にご指導いたします。

詠讃歌朗詠の合間に、～2019年4月～

慈光殿開館時間などの変更について

最近、慈光殿内の供物がなくなる事案が発生しています。関係署のご指導を受けて、次のように変更させて頂きます。

> 常時施錠を致します。お参りの際は寺事務所にお声掛けを頂くか、電話で参拝の旨をお伝えください。

気持ちよく慈光殿をご利用頂くために、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

大長寺連絡先：事務所　☎ 0465（83）3714

仏教講座のご案内

・八月十八日（日）
・九月十五日（日）
・十月二十日（日）

場所　大長寺地階ホール
時間　毎回午後四時から